看護学科の学科志望動機、人生の意味・目的意識、性格特性の関連について（Ⅱ）

齋藤和樹[1)]　丸山真理子[2)]　小林寛幸[3)]　花屋道子[4)]　柴田　健[3)]

The relationship between motives for course selection, purpose in life and personality traits of nursing students（Ⅱ）

Kazuki SAITO　Mariko MARUYAMA　Hiroyuki KOBAYASHI
Michiko HANAYA　Ken SHIBATA

要旨：昨年に引き続き看護学生の学科志望動機、人生の意味・目的意識、性格特性の関係について、質問紙、ＰＩＬ、ＴＥＧを用いて調査した。データは、横断的および縦断的に分析され、以下の結果を得た。動機得点は、１・２年生が３年生よりも有意に高い（p< .01)。動機因子得点を学年間で比較すると、「資格」因子のように現実的な動機では、学年間差はみられない。動機得点を縦断的にみると、学年があがると低下する傾向にあるが、減少率の小さい群と大きい群を比較すると、減少率の小さい群はＰＩＬ得点が少し上がっており、減少率が大きい群はＰＩＬ得点が大きく低下していた。ＰＩＬ得点の学年間比較において、本研究では、今までのＰＩＬ研究で言われている一般的傾向（１年生＞３年生＞２年生）ではなく、有意な差はないものの１年生＞２年生＞３年生という結果を示した。このことから、コホートの特性を考慮する必要性が示唆された。ＴＥＧでは、昨年同様全体的にはＮＰ＞ＦＣ＞ＡＣ＞Ａ＞ＣＰのM型を示した。しかしながら、ＰＩＬ得点の低い群では、ＡＣ＞ＮＰ＞ＦＣ＞ＣＰ＞ＡのN型を示した。

キーワード：看護学生、学科志望動機、ＰＩＬ、ＴＥＧ

Summary: We continued our research from last year to find the relationship between “motives for course selection”, “purpose-in-life” and “personality” of our nursing students whom we assumed to have vocational intentions and a clear purpose-in-life. The data was analyzed by horizontally (by grade level) and vertically (by personal score level). The score of “motives for course selection” of the first and second year students are significantly higher than those of the third year students. There is a trend that this score is decreased when the first year students become second year and when the second years become third year students. The students who have a bigger decreasing ratio for the score of “motives for course selection” showed a bigger decreasing score for PIL than those students who have smaller decreasing ratio. The average score of Tokyo University Egogram (TEG) showed NP＞FC＞AC＞A＞CP consist with last years. But the students who had a low PIL scores showed a different TEG pattern (AC＞NP＞FC＞CP＞A).

Keywords : Nursing Students, Course entrance motives, PIL, TEG

Ⅰ．はじめに

われわれは昨年の研究において、職業意識や人生の意味・目的意識がある程度はっきりしていると思われる看護学生に対しての適切な教育を考える手がかりとして、本学の看護学科の学生に学科の志望動機を調査する質問紙、ＰＩＬ（Purpose-in-Life Test)、ＴＥＧ（東大式エゴグラム第２版）を実施した。そこで得られた結果は、次のようであった。①看護学科の志望動機は、因子分析の結果、「資格」「社会貢献」「適性」「夢・憧れ」「将

１）看護学科助教授　２）秋田赤十字病院　３）秋田県大館鹿角健康福祉センター
４）弘前大学教育学部助教授
本研究は平成11年度共同研究費助成によるものである。

来展望」「家族」「能動」の７因子に分類される、②動機得点（学科志望動機質問紙の合計点）とＰＩＬ得点の学年間比較では、１・２年生が３年生に比べて有意に高い、③動機得点とＰＩＬ得点は中程度の正の相関が認められる、④ＴＥＧでは、ＮＰが高いプロフィールを示す、などであった。

今回われわれは、昨年同様の横断的比較とともに縦断的比較を行い、さらに多角的な検討を行うことによって、看護学生にとって学科志望動機、人生の意味・目的意識や性格特性が、どのような意味を持つのか、それらの関連はどうなのかを知るとともに、教育の影響などについても若干の考察を加えたい。

Ⅱ．研究目的

1）看護学生の性格をＴＥＧを用いて調査する。
2）人生の意味・目的意識（ＰＩＬのパートＡのみ使用）の学年間比較をする。
3）看護学科への志望動機を学年間で比較する。
4）人生の意味・目的意識と性格との関係を調べる。
5）学科志望動機と人生の意味・目的意識の関係を横断的および縦断的に調べる。

Ⅲ．研究方法

対象：日本赤十字秋田短期大学看護学科の学生230名（１年生83名、２年生80名、３年生67名）。平均年齢は、１年生18.92歳（SD3.18）、２年生19.77歳（SD2.76）、３年生20.46歳（SD1.71）であった。なお、分析に用いたのは、女子学生のデータのみである。

方法：４月の授業中に、自作した学科志望動機に関する質問紙（28項目の５段階尺度）、ＰＩＬ、ＴＥＧを学生に配布し学籍番号を記入させた後、回答を求め、回収した。

Ⅳ．結果と考察

1）ＴＥＧの学年間比較：

各学年とも、Nurtural Parent（ＮＰ）＞Free Child（ＦＣ）＞Adapted Child（ＡＣ）＞Adult（Ａ）＞Critical Child（ＣＰ）のM型を示した（表１）。全学年の平均得点のプロフィールも同じ形のM型を示している（表１、図１）。

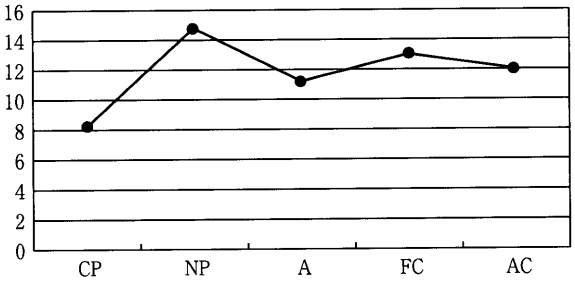

図１　全学年平均のＴＥＧのプロフィール

全体の性格特性として特徴的なことは、優しさや共感性をあらわすＮＰの高さと、明るくのびのびとした性格を示すＦＣが高いことである。これは、昨年のわれわれの調査結果と同じプロフィールであり、ケアすることを学んでいる看護学生にとって、望ましい特質とも考えられるし、このような性格の人が看護学科を志望するとも考えられる。

2）ＰＩＬの学年間比較：

表１　ＴＥＧ、ＰＩＬ、動機得点の学年間比較

学年		ＣＰ	ＮＰ	Ａ	ＦＣ	ＡＣ	PIL_A	動機得点
１年	M	7.760	14.830	10.820	12.840	11.920	99.120	95.578
N=83	SD	3.920	3.380	3.800	3.990	4.420	17.404	14.389
２年	M	8.310	15.110	10.850	13.160	12.210	96.725	95.300
N=80	SD	4.000	3.140	3.890	3.590	4.450	15.610	13.181
３年	M	8.820	14.560	11.560	13.060	11.700	96.343	87.403
N=67	SD	3.940	3.060	2.890	4.000	4.110	13.611	15.020
合計	M	8.260	14.850	11.040	13.020	11.960	97.478	93.100
N=230	SD	3.960	3.200	3.600	3.840	4.330	15.731	14.578
Oneway		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	**
学年間								1>3**
多重比較								2>3**

**...p＜.01

ＰＩＬ得点の平均値を学年で比較した結果、学年が上がるごとに低下する傾向（１＞２＞３）が見られるが、統計的に有意な差はなかった（表１）。

このことは、これまでのＰＩＬ研究から一般的に言われているように、１年生が最も高く、２年生で落ち込み、３年生でやや持ち直す（１＞３＞２）という傾向とは少し異なっているが、現２年生の昨年のＰＩＬ得点が非常に高く、それが維持された結果と考えられる。

３）学科志望動機得点の学年間比較：動機得点を学年間で比較した結果、３年生よりも１・２年生の方が有意に高く（p<.01）、１・２年生間では差がなかった（表１）。昨年の調査でも、１年生の動機得点は有意に高く、入学間もない新入生の希望に燃えた姿がうかがえたが、今年も同様の結果となっている。

４）動機因子得点の学年間比較：

「社会貢献」因子と「夢・憧れ」因子において、得点の平均値が、１年生は３年生に比べて有意に高い（p<.01）。「適性」因子では、１・２年生は、３年生に比べて有意に高い（p<.05）。また、「家族」因子と「能動」因子は、２年生が３年生よりも有意に高い（p<.05）。しかし、いずれも、１・２年生間では有意な差は見られない（表２）。

昨年の調査と合わせてみると、学年間で有意な差が見られなかったのは、「資格」因子のみであり、資格取得という客観的現実的な学科志望動機は、学年が変わることで変動しないものと思われる。このような志望動機を持って入学してきた人は、在学期間を通してその動機を持ち続けるのではないかという昨年のわれわれの仮説を支持する結果となっている。

一方、看護に対する思い入れともいえる主観の強く影響する他の因子は、さまざまな学習や経験をするにつれて修正されるために、３年生になると減少すると推測される。

５）ＰＩＬ得点差からみたＴＥＧのプロフィール：

昨年同様ＰＩＬ得点の高い群（Ｈ群）、中程度群（Ｍ群）、低い群（Ｌ群）に分けて、ＴＥＧのプロフィールを比較すると、Ｌ群のみＡＣが最も高い値を示し、Ｈ群、Ｍ群のＭ型とは異なるＮ型のプロフィールを示した。また、ＰＩＬ得点が高くなると、ＮＰ、Ａ、ＦＣは高くなる傾向にあり、逆に、ＣＰ、ＡＣは、低くなる傾向にある（表３、図２）。

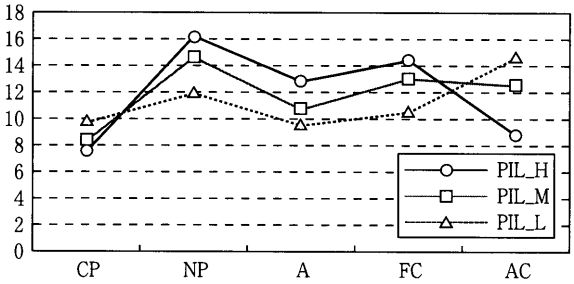

図２　ＰＩＬ得点差によるＴＥＧのプロフィール

このことから、自分の人生の意味・目的意識が不明確な人は、周囲の人々に合わせてし

表２　動機得点の学年間比較

学年		資格	社会貢献	適性	夢・憧れ	将来展望	家族	能動
１年	M	3.566	3.819	3.349	3.687	2.964	3.277	3.000
(N=83)	SD	1.169	0.702	0.819	0.767	1.080	1.004	0.844
２年	M	3.684	3.655	3.298	3.488	3.025	3.458	3.100
(N=80)	SD	0.926	0.733	0.730	0.806	0.990	0.968	0.826
３年	M	3.694	3.397	3.000	3.160	2.736	3.015	2.687
(N=67)	SD	0.831	0.821	0.688	1.048	1.075	1.071	0.898
合計	M	3.645	3.639	3.230	3.464	2.919	3.264	2.943
(N=230)	SD	0.994	0.765	0.763	0.892	1.050	1.023	0.867
Oneway		n.s.	**	*	**	n.s.	*	*
学年間多重比較			1>3**	1>3* 2>3*	1>3**		2>3*	2>3*

*...p<.05　**...p<.01

表３　ＰＩＬ得点差によるＴＥＧと動機得点

PIL度		ＣＰ	ＮＰ	Ａ	ＦＣ	ＡＣ	動機得点
PIL_H	M	7.370	16.222	12.778	14.370	8.704	98.811
N=54	SD	3.857	2.873	3.289	3.698	3.601	13.452
PIL_M	M	8.240	14.877	10.644	12.966	12.610	92.599
N=146	SD	3.862	2.943	3.623	3.532	4.025	14.206
PIL_L	M	9.800	12.000	9.533	10.567	14.767	85.467
N=30	SD	4.254	3.514	3.309	4.614	3.607	14.710
合計	M	8.239	14.817	11.000	12.983	11.974	93.100
N=230	SD	3.959	3.235	3.648	3.870	4.325	14.578
Oneway		*	**	**	**	**	**
群間多重比較		H<L*	H>L** H>M** M>L**	H>L** H>M**	H>L** H>M** M>L**	H<L** H<M** M<L**	H>L** H>M** M>L**

*...p<.05　**...p<.01

まいやすく、自主性に欠ける行動をとっていることが予想される。

一方、意味・目的意識が明確な人は、過度に周囲に合わせて遠慮したり、我慢したりする事もなく、批判的・支配的になったりすることもないと考えられる。そのような人は、合理的な判断をしながらものびのびとしており、他人にも優しくなれると推測される。

6）ＰＩＬ得点差からみた動機得点の比較：

ＰＩＬ得点が高ければ、動機得点も高い傾向にある（表３）。

昨年の調査でも、ＰＩＬと動機とはある程度の相関があることが示されている。意味・目的意識の高い人は、はっきりとした動機を持って入学してきていると予想される。

7）ＰＩＬ得点差からみた動機因子得点の比較：

ＰＩＬ得点が高ければ、「社会貢献」、「適性」、「夢・憧れ」、「家族」、「能動」因子の得点は高い傾向にあり、「資格」因子の得点は低い傾向にある（表４）。

人生の意味・目的意識の明確な人は、活動内容などに重点を置いて考え、資格などの形式的なことがらにはあまり重点を置いていないと考えられる。また、このような人は、自分にできることを明確に意識し、社会に貢献できる存在であるという意識を持っていると推測される。

8）動機得点減少率の差によるＰＩＬ得点差：

縦断的に見ると、動機得点は学年が上がると減少する傾向にある。この減少率の大きさによって４群に分けたのち、減少率の大きい方の25％をＨ群、小さい方の25％をＬ群とし、その中間の50％をＭ群としてＰＩＬ得点の変化を比較すると、Ｌ群とＨ群とに大きな差が見られ、Ｌ群は学年が上がるとＰＩＬ得点がやや上がり、Ｈ群は下がる（表５）。

このことから、学科志望動機を比較的維持

表４　ＰＩＬ得点差による動機因子得点

PIL分類		資格	社会貢献	適性	夢・憧れ	将来展望	家族	能動
PIL_H	M	3.514	3.898	3.634	3.783	3.094	3.472	3.066
	SD	1.041	0.721	0.678	0.820	1.047	0.988	0.900
PIL_M	M	3.655	3.593	3.195	3.468	2.834	3.265	2.968
	SD	0.959	0.758	0.701	0.849	1.047	0.988	0.854
PIL_L	M	3.825	3.407	2.687	2.883	3.022	2.889	2.608
	SD	1.079	0.780	0.830	0.960	1.061	1.172	0.817
合計	M	3.645	3.639	3.230	3.464	2.919	3.264	2.943
	SD	0.994	0.765	0.763	0.892	1.050	1.023	0.867

表5　動機得点の減少率によるＰＩＬ得点差

動機減少率		PIL-A得点	PIL差	動機得点
Ｌ群	M	98.356	1.897	91.846
	SD	16.636	13.61	15.018
M群	M	95.710	-1.058	93.623
	SD	13.794	11.94	13.07
H群	M	95.833	-5.278	87.917
	SD	14.011	13.066	16.233
合計	M	96.458	-1.313	91.715
	SD	14.610	12.869	14.528
Oneway		n.s.	*	n.s.
群間				
多重比較			L>H*	

*...p<.05

できている人は、人生の意味・目的意識も維持できていると考えられる。一方、学科志望動機が大きく下がると、意味・目的意識も見失われがちになる。同様に意味・目的意識が見失われると学科志望動機も大きく下がるという関係になっていると思われる。

Ⅴ．おわりに

ＰＩＬを同じ学年の時点で比較してみると、現３年生が２年生であったときと、現２年生との違いが認められる。このように、入学年度によってカラーの違いがあることが予想される。もし、コホートにより、カラーの違いが認められるとしたら、教育をする側としては、いち早くその特性を把握し、その特性に合わせた教育を柔軟に行っていく必要があるかもしれない。したがって、横断的研究や縦断的研究の他に、コホート分析などの手法を使って、研究する必要が示唆された。

あわせて、ＰＩＬの質的分析を行い、看護職にとって非常に重要な死生観など人生への態度についての考察を加えることの必要性を感じている。

文　献

1．菊池和子：看護学生の病気についてのイメージに関する研究，岩手大学人文社会科学研究科研究紀要，第６号，pp.97-106，1998

2．小林寛幸：青年の意味・目的意識についての心理学的研究－自我同一性との関連性の検討－，岩手大学大学院修士論文未公刊、1998

3．齋藤和樹、他：看護学生の学科志望動機、人生の意味・目的意識、性格特性の関連について－PILとTEGの分析を通して－、日本赤十字秋田短期大学紀要，No. 4，pp. 3-8，1999

4．佐藤文子監修：PILテストの全体像と分析法 PIL ハンドブック　第Ⅰ部，システムパブリカ，1998.

5．佐藤文子監修：PILテストの評定と解釈の実際 PIL ハンドブック　第Ⅱ部，システムパブリカ，1998.

6．佐藤文子監修：PILテストの臨床・研究への適用 PIL ハンドブック　第Ⅲ部，システムパブリカ，1998.

7．酒井志保、他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態－本学看護学科１期生の入学時調査から－、日本赤十字秋田短期大学紀要、No.1，pp. 77-82，1996

8．酒井志保、他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態（第２報）－本学看護学科２期生の入学時調査から－、日本赤十字秋田短期大学紀要、No.2，pp.33-41，1997

9．酒井志保、他：本学看護学科学生の学校および看護学科選択理由の検討－本学看護学科３期生と２期生の入学時調査を比較して－、日本赤十字秋田短期大学紀要、No.3，pp.45-51，1998